

日本ボーイスカウト北海道連盟だより 143号



斧の響き



世界を救うのはボーイスカウトだ！

ボーイスカウト北海道連盟
理事長 長岡 正彦



皆さんご存知の通り、東日本大震災における地域での募金活動、タオルを送る運動ではボーイスカウトの持てる力を発揮することができました。また一部のスカウト、リーダーによる、現地へ出かけてのボランティア活動も行われました。この方々の貴重な体験をベースに北海道でも同じ震災が起きた場合にボーイスカウトで出来る事を想定することも必要だと思います。

9月には、滝野でカブラリーを開催しました。参加された指導者の方々には何らかの役割を担っていただきました。ありがとうございました。カブラリーで感じたことはカブ年代の子ども達も、信頼して任せれば役割をきちんとこなせるということで、今更ながらに彼たち、彼女たちの可能性や能力を認識させられました。子ども達だけでの行動で生き生きとしておりましたことは、参加団にお配りしたDVDをみられてもお分かりの通りです。

今年の夏には、山形で「第4回北海道・東北キャンポリー（4HTC）」が開催されます。スカウトにとっては、道外へ出て他県のスカウトと交流することは視野を広め、スカウティングの楽しさ、素晴らしさを再認識する貴重な場ともなります。特に東日本大震災の発生により、北海道のスカウトが東北へ遠征し、被災されたスカウトとの心の連携を結ぶことは重要なことと思いますので、是非とも各団で参加の推進をして頂きたいと思っております。また4HTCに不参加のスカウトの為に、ボーイスカウト真狩野営場で「北海道キャンポリー」を開催します。今年はボーイ年代のスカウトが山形か、真狩のどちらかの大会に参加してスカウティングを楽しむ、そういう年にしたいと思っております。両方の大会に参加も可能であることを付け加えさせていただきます。

また昨年10月に各団および隊にお届けしました「60周年記念誌～原点回帰・先哲に学ぶ」は、私達が誇る先哲お二人のボーイスカウト人生を読みやすく一冊にまとめたものです。当然、時代背景や社会情勢は現在とは比較はできませんが、ボーイスカウト教育が必要な点では現在も当時と同じ状況といって差し支えないと思われま。いや現在の方がより強く求められているのかもしれませんが。ボーイスカウト活動で得た「他人を思いやる気持ち」と「統率力」は現在社会においてもっとも必要とされているのではないのでしょうか。

「世界を救うのはボーイスカウト以外に無い」と下田豊松は断言しております。こういう信念のもとに私達も日々のスカウティングを行なっていこうではありませんか。

23年度は北海道連盟の登録は2,000名を切ってスタートいたしました。上進の時期を過ぎ、やっと2,000名を越えました。社会に影響のある運動であり続けるには常々言っている通り、少なくともベンチャースカウトまでを経験させて社会に有為な青年を送り出そうではありませんか。

滝野の森で緑の妖精を守る 北海道カブラリー／ビーバーデー

9月17日(土)～19日(月)

33コ団461名参加

生田 棕也くんへ

棕也くん、お元気でしたか。

私たち青少年山の家職員は、みんなとても元気に過ごしています。

棕也くんからのお礼のお手紙が、山の家に届きました。カブラリーの思い出や楽しかったことがたくさん私たちに伝わり、とてもうれしかったです。

あと、まくらカバーを持ってかえってしまったというのですが、山の家は全然気にしていませんよ。正直に言ってくれてとてもうれしいです。ありがとうございます。

これからも、山の家で学んだことや感じたことを忘れずに、みんなで力を合わせながら、学校や家庭での生活に生かしてくれることを願っています。

またいつか、棕也くんに会えることを心から楽しみにしています。

お元気でこれからもいろんなことにチャレンジしていってください。

平成23年10月10日

札幌市青少年山の家 職員一同

拝啓 中秋の候、貴職におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろより、札幌市青少年山を家の運営にご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

9月17日には、札幌市青少年山の家をご利用いただきありがとうございます。

このたび、留辺薬第2団の生田 棕也くんから、心温まるお礼状をいただきありがとうございました。

お礼状は、私たちの励みとなり、より一層日々の活動に力を注ぐことができます。お礼状につきましては、現在当館に展示させていただいております。

このたびの経験を日々の生活に活かしていただければと願い職員一同からのお手紙を同封させていただきます。

皆様方のご健康をお祈り申し上げます。 敬具

札幌市青少年山の家

ボクはるべしべたい2團の生田棕也です。
カブラリーでお世話になったりA110の605室に泊まり
ました。
まくらカバーを返すつもりが、持ってききました。おわびとおかえりし
ます。
楽しかったところは滝野の森の青少年の家が広くて
大きかったです。食事もとてもおいしかったです。
お風呂も広くてきれいでした。
ありがとうございました。

※ スカウトの一人が枕カバーを返すため、おわびとお礼を書いた手紙に青少年山を家のスタッフが喜んで返事をくれた事に本人、親そして我々指導者も感激しました。素晴らしい教育が出来ました。

こういう心の交流が嬉しく大切なことであると、一人のカブスカウトが心に刻むことが出来た最高のカブラリーでした。(留辺薬第2団)

全道指導者のアンケート結果から、「宿泊場所を学校ではなく、宿泊施設とすること」「食事も弁当などの仕出しでないもの」「札幌で開催出来てスカウトが夢を持てるものを取り入れること」「テーマの中身が全てに関連性のあること」をもとに、地球環境をテーマに考え、札幌の宿泊施設であること、ロケーションが良いことなどを考え「滝野すずらん丘陵公園／札幌市青少年山の家」を会場に開催されました「平成23年度北海道カブラリー／ピーバーデー」は、左頁に紹介しましたように、スカウトたちに大きな感動と想い出を残した大会となりました。

《新たな試みのカブラリー》

初めて試みたプロジェクトシステムによる運営は、「コアメンバーで企画を進め、目的に沿ったプログラム・運営・ストーリーの準備が徹底出来た。今までに有りがちな各部門（特にプログラム・全体行事・宿舎）がバラバラでストーリー性に統一感がなかったものが改善されたと思う。」

「2日目のプログラムは、ボーイスカウト教育の主眼である自主性を育てることと、班制度を取り入れて、間違っても困っても組長を中心とした活動とし、指導者には全員奉仕をお願いしてスカウトだけの行動としました。

案の定間違っても午前も午後山の家から出なかったグループがいたり、スカウト同士が喧嘩をしたり、迷子のスカウトがいたり中々人に聞けずうろろうろしていたグループもいたが、それでも自分たちで考えて挑戦していた姿がありました。」と運営本部員の感想にあるように、一定の成果が得られました。

隊長のアンケートでも、自隊のスカウトが気になった8%、全体が見られなかった29%で、運営スタッフに参画できて良かった42%、スカウトたちの自発性を育む良い機会であった46%の回答がありました。

また、「3日目のマスゲームで“引っ込み思案の子”が、他の団スカウトと楽しそうにしている姿を見て感激した」との感想も寄せられていました。

《情報徹底の課題》

数回にわたり発行した「カブラリーニュース」などの事前情報は、54%の隊長が役に立ったとアンケートで回答している反面、約半数の隊長から「読まなかった」「発行タイミングが悪い」「誰に送られているのかわからない」「内容・連絡方法の改善を要する」と指摘を受けました。

《日常活動の課題》

◇ 森の教室入口で挨拶するスカウトがいませんでした。又、工作を作り終えてもお礼を言えるスカウトも少なく、組長を先頭にして並ばせ「よろしくお願いします」「有難うございました」と挨拶をするよう指示しましたが・・・その指示すら不思議そうな様子を見せるスカウトがおりました。

◇ 組で動くことができず自分勝手に行動するスカウトが多く、組長がだれかわからないという組もありました。

◇ 隊長へのアンケートで隊集会からカブラリーに繋がる事前準備の活動では、79%の隊長が効果的、隊・組集会と連動できたと回答した反面、26%の隊長が隊・組集会に影響が出た、連動が出来なかったと回答しています。

◇ ほかに、「スカウト、指導者の服装の乱れ」「国旗儀礼や集団行動（規律）が出来ていない」など日常の隊活動の課題も浮き彫りにされました。

《ベンチャー奉仕》

自主的に奉仕してくれた事が大変喜ばしいことでした。単なる手伝いではなく重要なスタッフとして、準備段階から意見やアイデアを出してくれ、「何かやることはありますか?」「次は何をしましょう?」と次々と仕事を探し、行動するベンチャースカウトの動きに感動しました。其々個性があって見ていて面白く、そしてとても頼もしく思いました。参加したカブスカウト達にもカッコイイ憧れの存在になったことでしょう。



カブラリーでの「東北の仲間への寄せ書き」は、北海道・東北ブロック協議会総会の席上で、東北各県連にお渡ししました。

(11月19日。岩手県連)

スカウトたちの感想文から

カブラリーに参加したカブスカウトたちは、ライオンキングに感動し、全道に多くの仲間がいることに驚き新たな友だちができた事を喜び、それぞれのプログラムで学び楽しみました。

感想文の一部を紹介します。(原文のままですが固有名詞の削除など一部修正しました。)

【プログラム】

- ◇ 20種類の実や動物の名前を知りました。
- ◇ ナイトの衣装を着て「ヘーそんなんだ」の指令書をみてうごきました。いろいろなミッションがあって、とても楽しかったです。
- ◇ 雨の成分について勉強するコーナーはヘーそんなんだと思う事がとてもとてもあって、勉強になったし、実験するのは楽しかったです。札幌の水や滝野の池の水とくらべるととても、滝野の池はきれいなのがわかりそのためには、自然を大切にすることを知りました。
- ◇ 自然学習コースは、さいしょは「そうゆうのはおもしろくなさそうだなー」ってのはなしてたけれど、やってみるといがいとおもしろかったです。とくにどんな雨がさんせい雨なのかをさがすのがおもしろかった。
それをさがすのに、まずさっぽろの池の水・雨水などをよいうしてあるとくべつな葉を入れます、そうすると、その水にそれぞれ色がつきます(すべてちがう色)。その色によってさんせい雨は、ふつうのアルカリせいなのかかわかるらしいです。
- ◇ 東日本大しん災の写真は、本当にこんな事がおこったのか、CGじゃないのかと思うぐらいすごくて、たくさん物が流されているところは悲しくなりました。
- ◇ 最後の方で、ザズにあいました。ざんねんなことにザズはその時にねていました。でも人間の方のザズとは、話をしました。ザズのスーツのえりには、青いえのぐ(?)のようなものがありました。
- ◇ 開会式で、ザズが青い顔をして、助けを求めていました。なので、こんなにたのまれてるんだから明日がんばらなきゃーと思いました。
三日目、なにはともあれ、ザズの顔が元にもどってよかったです。
- ◇ ぼくは、カブラリーが、あまり楽しくなかったです。その理由は、悪魔をやっつける時、悪魔が弱かったことと、悪魔が、へんで、ざんねんだったことです。悪魔は、手をぬいてるかもしれませんが、本気を出しても、どうせ勝てるだろうなあと感じていたので、こっちがすごい手をぬいて戦いました。

- ◇ たきのの森に行きましたが、途中からどしゃぶりで2人迷子になったけど、2組は全くぬれてなくてオイッ!てツッコみたくになりました。
- ◇ 外に行っているいろいろな暗号をとりて、次にまた暗号をとりていきました。次に悪魔のつかまえかたをおそわりました。次にロープ結びをしました。ほん結びが心の中にこっています。滝野はとてもたのしかった三日間でした。
- ◇ 森がとてもたいせつだと言う事が分かりました。

【衣装】

- ◇ カブラリーの準備では、2班のアイデアを出し合って班で一つにしぼりました。そして2班のデザインをそれぞれ組長が発表し一つに決めました。それに、それぞれの個人できなアイデアを付けて、みんなの良いところが入ったデザインが出来ました。
ぼうしは三色の色紙をぼうしの形にしてはるのが難しかったです。七面鳥の羽にカラーズプレーをしたのがポイントでした。
たても剣もダンボールや新聞紙で作るアルミはくなどで光るように作りました。
マントは隊のチーフカラーと同じ布に北海道のデザインを入れました。大人に手伝ってもらったのは、マントのミシンぬいだけです。
マントもぼうしもオートクチュールです。それが賞に入ってうれしかったですが個人賞ではなく団体賞だともっとうれしかったです。
雨のため外でのけっ作のナイトの衣装を身に付けて、森のよう精を助けられなくて残念でした。どんな使令が出されたのか気になります。



【生活・友だち】

- ◇ 同じへやでねる時、メチャうるさくて、注意しても聞かないしそういう所をちゃんとしつけないとダメだと思いました。
- ◇ 同じ隊の子は早く友達を作りたいと言っていました。私もそう思いました。友達を作ればしゃべるきかひもふえると思いました。チャンスは三日間です。それにチャンスは1日でもいっぱい作れる時間はあると思いました。それは、
 1. ライオンキングを見に行くバスの中、行き帰り。
 2. めいしくばりに来る人。
 3. みんなでホールに集まる時。
 4. 同じへやの子達。1日で友達を作るチャンスは4つもありました。山の家についてさっそくチャンスです。同じへやの子がすでにへやであそんでいました。だけど、話かけましたが、聞こえていなかったのか、聞いていなかったかです、「まあ、いいんじゃない？」と友達がいったので私はあきらめました。ライオンキングの帰りのバスで、後ろに乗っていた子が話しかけてくれました、その時はすごくうれしかったです。
- ◇ この「カブラリー」で、友だちが2人できました。2人とはすごく仲良くなって、いっぱいでもないけど遊んでチョー〜楽しかったで〜す！
同じへやの団の人と友だちになれました。うれしかったです。
知らなかった人たちと友だちになりました。
- ◇ 家の中に入ると全道のカブ隊でいっぱいです。ぼくは「全道のボーイスカウトってこんなに人がいるんだ。」と思いました。
- ◇ 最初の入館式で、北海道にいるスカウトの人数の多さと、そして広い道内のさまざま地域から集まっているという事にびっくりしました。さらに、ぼくは隊旗手を務めていたので、ステージから全体を見てみると各隊の隊旗手がズラーッと並んでいて、広場にはその旗の数だけのカブ隊が集まっているのだなあ実感しました。そして、少し緊張して隊旗を持ちながらも、自分と同じ「カブ



隊」の仲間の多さに感動したりもしました。

つかれたけれど、ほかの団とふれあえて楽しかったです。

【全体感想】

- ◇ 私は、この「カブラリー」で人間は、いろいろなことをけいけんして、成長していくことが、はっきりとわかりました。私はもう少しでボーイになるので、ここでけいけんしたことをもとに、つづけていこうと思いました。
- ◇ 色々なことがあったけどやっぱり楽しかったです。それとボーイスカウトをやっていてよかったですと思いました。
- ◇ 友だちもたくさん出きたしもっともっとたくさんの方に、ちょうせんしたいなと思いました。
- ◇ カブラリーの準備をしてくれた道連のみなさん、ボランティアのみなさんありがとうございます。
- ◇ これからは、このカブラリーで学んだ事を活かしていきたいと思えます。
- ◇ 私はカブラリーに行っているいろんなことをまなびました。仲間ときょう力すること、みんなでなにかをやりとげることなど、そのほかにもライオンキングかんしょうなど、また、新たな思い出をつくることができました。
- ◇ ハイキングです。結局はつかれたけど、問題をカブみんなでといたり、自分たちで「次にあそこに行こうよ」「あ、あっち行こうよ」など、みんなと協力できたと思いました。
- ◇ カブ隊として活動してきたこの一年で、ぼくは大切な事に気付きました。それは、人の気持ちを思いやる心が一番大事な事だと感じました。集団であっても、一人一人が思いやりの気持ちを持っていれば、自然と行動にも発言にもその心が表れてくると思いました。
ぼくは、人の気持ちを思いやれる人でありたい、そして、集団の中でであっても、自分の出きる事を気付けて行動できる人になりたい、そして、自分に与えられた役割に対して責任感のある人になっていきたいと、様々な体験を通して感じました。



【ライオンキング】

【不思議】

- ◇ げき団四季劇場についたらカードがくばられて、そのカードについているバーコードを「ピツ」とやると入れました。
- ◇ ライオンキングの人たちはいきぎれしないのかと思った。
- ◇ 一つぎもんに思ったことがあります。流れてくる音楽は、ほんとうに前にあった楽器とミュージカルを演じている役者さんの声であんな音楽が出るのかとずっとぎもんでした。
- ◇ ザズを見た時は、開会式では青だったけど、本物はちがうじゃんと思いました。

【感動】

- ◇ メッチャクチャ感動し、メッチャ笑えました。また行けるききがあれば行きたいです。
- ◇ 初めての四季げき場に僕は「うわーすげー」と思いました。最初からはく力まんてんのえんぎ、えん出と、とても上手な歌のすべてにおどろきました。ストーリーもとてもおもしろく、感動したし、笑えました。今までみたげきの中でダントツすごかったです。
- ◇ いろいろな動物を人間がやっていたり、自然の中のようなすをえんじているのに感動しました。
- ◇ ワクワクしながら、舞台を見つめていたら、突然、客席の通路を動物の衣装を身にまとった人や、きらびやかな衣装のダンサー達がものすごい迫力で登場したので、ぼくはドキドキしながらずっと見つめていました。アフリカンな音楽も歌もすばらしかったけれど、最も興味をひかれたのは、動物達の衣装でした。その中でもゾウは、本当にきれいだなあと思いました。今まで見たこともないような、とても幻想的な姿をしているゾウだと思いました。このミュージカルは、舞台の上に登場した役者さん達や、ぼくと同じ年くらいの子供の役者さんもいてすごい！と感動したのですが、それと同じくらい衣装のすばらしさがとても強く心に残りました。



- ◇ スカーはとてもおそろしくこわかったです。ザズーはとてもおもしろくてえらい鳥でした。はいえなたちは悪かったけれども、さいごにスカーを食べてくれたのがよかったです。ムファサ王がしんだのはさみしかったです。お気に入りのキャラクターは、シンバ、ナラとムファサ王です。

わたしの前にもキャラクターが通りました。自分が動物になりきっててすごいと思いました。

- ◇ 6年生くらいの男の子、女の子が出ていて、わたしも出て声をはりあげてみたいなあ。と思いました。
- ◇ 一人一人の声が、きゃくせきの後ろにもとどいて、アニメより、人がやってるから、一人一人のうごきがすごかったのよかったですと思います。
- ◇ 手作りだとは思わないほどすごかったです。演技ももちろんすごかったです。
- ◇ ライオンキングのどうぶつのいしょうが手作りです。
- ◇ すごいなーと思ったのは、いろいろなどうぶつが出てきて、それがぜんぶほんものに見えたところです。ときどき、まっくらになったり大きな音が出てびっくりしたけど、こわくありませんでした。
- ◇ 特に、ハイエナたちとシンバたちと、たたかうところがおもしろかったです。

もう一つ、楽しかったのは、子どもころの、シンバがザズーからにげるときに歌っていたところです。

なぜかという、リズムがよかったからです。おもしろかったです。

- ◇ 命の大切さを学びました。

【迫力】

- ◇ 席のよこから作り物だけど、ゾウやキリンやしまうまやハイエナやチーターや鳥などが出てきて、でてきたときはすごいはくりょくがありました。
- ◇ はくりょくがあって、とくべつのえんぎもみせてくれてとてもうれしかったです。



ジオパークからプログラムを考える！

第53回全道スカウティング研究協議会

地域社会と連携したスカウティングを広めることと、地域の素材を活かした活動プログラム開発の研究・演習を行うことを狙い「ジオパークから子どもたちに豊かなプログラムを提供する」をテーマに、第53回全道スカウティング研究協議会が、10月22日(土)～23日(日)、昭和新山および洞爺湖有珠山ジオパークを会場に72名の指導者が全道各地から参加して開催されました。

スカウティング創始100周年記念全道研から3年間継続した「スカウティングのありよう」の研究協議を経て、昨年から行っている「プログラム開発研究」の2年目となる今回は、国内第1号に指定された洞爺湖有珠山ジオパーク。特に、特別のご配慮で行われた昭和新山の登山を始め、まだ記憶に新しい有珠山噴火の災害遺構や自然環境の豊かな洞爺湖周辺を実踏することにより、変動する大地との共生を体感して、子どもたちに豊かな活動を提供するプログラム開発の研究・演習を行いました。

初日は、生憎の雨模様となりましたが、通常入山が禁止されている昭和新山を特別の計らいで行った「学習登山」を初め、「有珠山外輪山遊歩道」「金毘羅火口災害遺構」「中島と森林」「火山と共生」などのコースで、参加者それぞれの興味・関心に応じてフィールドワークを行い、翌日は各部門別に活発な意見交換のもと、実のあるプログラム開発の研究・演習が展開されました。

また、初日の夜は全道の指導者が自隊の悩みやスカウティングのあり様などについて“熱い”意見交換や交流が夜遅くまで繰り広げられ、この全道研において「若手指導者の集い」が発足し、ネットワークを拡げ北海道キャンポリーなどに積極的に参画していくことが話し合われました。

＝部門別研究協議から＝

- ☆ 「金毘羅災害遺構」を歩き、自隊の地域に置き換えて2年間のプログラムを作る要素を見出した。
- ☆ 自隊の地域と異なるので、プログラムを作れないと発言する指導者もいましたが、どんな場所でもその特性を生かしてプログラムを作れるように、挑戦すべきではないか。
- ☆ 一か所の下見から自分が考えたプログラムにプラスアルファをいかに増やすかは、日頃のトレーニングとRTなどで多くの仲間と話しあう事が必要である。
- ☆ 下見をした時、ただ見学する、施設を利用するのみだけでなく、視野を広めそこでスカウトが何を感じ興味を持つかを見極めてプログラムを提供（もしくは示唆・ヒントを与える）は、指導者の力量と普段からのスカウトの接し方による。
- ☆ 危険とスカウトの楽しさは背中合わせである。時には引き返す判断も必要になり、指導者の決断とその決断・判断するために研修への参加や経験の積み重ねがスカウトを守ることになる。
- ☆ 昭和新山生成の記録（ミマツダイヤグラム）が世界的に高く評価された事を知り、その方法をもとにスカウトの記録作りをプログラムにした。スカウトは成長しているので毎年記録させる。又は夏休みの朝顔の記録などでも応用できる。
- ☆ このほか、様々なプログラムヒントが話し合われ、参加した指導者が自隊で地域素材を活かしたプログラム開発をすることが期待されます。

(ジオパークでのフィールドワークにもとづくアイデアフラッシュの話し合いですので研究協議の記録は発行しません)



ボリースカウト指導者
地域資源活用学ぶ
全道研究協議会 桜公園で植樹も
第53回全道スカウティング研究協議会(ボリースカウト)

ジオパーク探検の説明や注意事項を聞く参加者

た。昭和新山、洞爺湖有珠山ジオパーク周辺でも行われた。同研究協議会は、ボリースカウト指導者の研修、交流の場。今回は、地域素材をもとにしたプログラム開発の研究を重点目標に開催された。

洞爺湖有珠山ジオパークの探検では、事前にコースの注意事項やジオパークの説明を受けた後、思い思いに昭和新山や有珠山外輪山、金毘羅火口、中島などを見回った。

参加者は子供たちに豊かな活動を提案するため、写真撮影なども取った。23日は洞爺湖公園で記念植樹を行った。(西村 博幸)

室蘭民報に掲載されました

【予告】

第54回全道研

平成24年10月
20日(土)～21日(日)

十勝エコロジープーク
(音更町)

十勝川温泉

第4回北海道・東北ブロックキャンポリー

北海道キャンポリー2012

3. 11東日本大震災から間もなく1年を迎えようとしています。

今、私達にできることは何でしょう。身の周りを振り返り、自身が取り組むべきことや実行できることを精一杯頑張ることでないでしょうか。命の尊さを一人一人が受け止め、考えることではないでしょうか。

このような状況だからこそ日頃のプログラム展開や活動を通し、「今できること」は何かを問い、考える大会として、被災した仲間を思い、未来に向けて蔵王の地に集おうではありませんか。(4HTC開催趣旨から抜粋)

4年に1度、日頃の活動の成果を競い確かめあうキャンポリーが、「北海道・東北ブロック(4HTC)」と「北海道」で開催されます。

北海道の多くのスカウトが参加し易いように、4HTCは「個人参加」、北海道キャンポリーは「班単位」(班構成が難しい場合は個人)で参加できるように配慮して2つの大会を開催します。

大会名	第4回北海道・東北キャンポリー(4HTC)	北海道キャンポリー2012
テーマ	希望への絆	ともに進もう 真の頂きへ(案)
期 日	平成24年7月30日(月)～8月2日(木) 3泊4日	平成24年8月3日(金)～8月6日(月) 3泊4日
会 場	山形県上山市蔵王坊平高原国設野営場	虻田郡真狩村 ボーイスカウト真狩野営場
参加費	1名:15,000円(スカウト、指導者共) 他に、交通費、移動中の食事代、北海道派遣隊費など。*詳細は別途連絡	1名:15,000円(スカウト、指導者共) 他に、ラフティングなどオプションプログラム参加費。*詳細は別途連絡
申 込	隊を通じて個人単位で申込み	隊を通じて班単位で申込み 班構成が難しい場合は地区で班を構成
活動隊	北海道派遣隊2コ隊(予定)を構成する	参加申込のあった数個の班により指導者を含め33人を基本とする隊を構成する
燃 料	LPガス	薪を配給。非常用に他の燃料も認める
主食米	配給なし。無洗米を持参	配給なし。無洗米を持参
装 備	個人装備のみ。 派遣隊装備は道連が用意する。	個人装備 班単位で3泊4日の野営装備
行 程	7月28日(土)午後、苫小牧市(予定)に 集合。派遣隊構成の事前訓練を行う。 7月29日(日)夕刻、フェリーで仙台へ 7月30日(月)午前、仙台から貸切バスで 会場へ移動 8月2日(木)会場発。 夕刻、仙台からフェリーで苫小牧へ 8月3日(金)午前、苫小牧で解散。	8月3日(金)10:00～16:00の間 に、班単位で現地集合。設営。 8月6日(月)撤営完了次第、昼食の支給を 受けて現地退場
内 容	*必須プログラム 友情・交換行事/蔵王登山/奉仕活動 絆(キャドル自作) *選択プログラム クアルオートウォーク/スカウト技能 チャレンジ(料理、ツリークライミング) ものづくり	パトローリングの実践を目指し班単位で活 動。エコキャンプを实践。 *B級グルメコンテスト・全体交流会 *選択場外プログラム(一つ必須) [ラフティング、ハイキング、ジィーシーブ] *選択場内プログラム [ウイズアクトキング、開拓、パイロアクトなど]

4HTCは1月上旬、北海道キャンポリーは1月下旬に詳細の連絡(案内)を各団に送ります。

平成24年度 主な事業の予定 (案)

《実修所・研修所》

名称	期間	場所
ウッドバッジ実修所カブスカウト課程 第151期	4月29日(日) ～5月4日(金)	旭川地区野営場 (野営)
ウッドバッジ研修所BVS課程 北海道第15期	6月22日(金) ～6月24日(日)	北海道神宮頓宮 (舎営)
ウッドバッジ研修所CS課程 北海道第46期		
ウッドバッジ研修所BS課程 北海道第45期		
ウッドバッジ研修所VS課程 北海道第4期		
団運営研修所(団委員研修所) 北海道第12期		

《ボーイスカウト講習会》

地区	期日	会場	地区	期日	会場
函館	9月上旬	未定	留萌		
胆振			旭川	10月14日	旭川地区野営場
石狩			上川	4月22日	未定
札幌	4月1日	北海道神宮	北網	11月上旬	北見市
	11月18日	北海道神宮	釧路	11月	釧路福祉センター
空知	9月中旬	美唄わかず幼稚園	十勝	H253月17日	帯広市

《第54回全道スカウティング研究協議会》

期日	会場(フィールド)
10月20日(土)～21日(日)	十勝エコロジーパーク(音更町) 十勝川温泉

《平成24年度開催の大会・フォーラム》

大会名	期日	会場
第4回北海道・東北ブロック キャンポリー	7月30日(月)～8月2日(木)	山形県上山市 蔵王坊高原国設野営場
北海道キャンポリー2012	8月3日(金)～8月6日(月)	真狩村 ボーイスカウト真狩野営場
第11回日本アグーナリー	8月2日(木)～8月6日(月)	滋賀県竜王町 希望が丘文化公園
第19回 全国スカウトフォーラム	11月23日(金・祝) ～25日(日)	福島県磐梯高原 磐梯青少年交流の家

《平成24年度北海道連盟年次総会》

日時	平成24年5月13日(日) 10:00～14:00
会場	北海道神宮頓宮を予定
内容	年次総会、北海道連盟感謝状贈呈・表彰授与、代議員懇談会

地区のありようについての論議を！

《年次総会で発議／意見書集約》

平成23年度道連年次総会において「地区のありよう」を検討するようにとの発議があり、各地区委員長に「意見書」の提出をお願いしました所、次のような意見が寄せられました。

- 地区を無くして道連直轄にすべき。
- 自団の活性化を最優先して地区のあり様を検討すべき。
- 道連で原案を作って地区編成を行う。／道連主体の再編は好ましくない。／地区再編は各地区の意見を充分踏まえて行うこと。
- 地区再編を行う際、人間関係が課題となる。
- 現状はコンパクトでやり易い反面、大きなプログラムができないなど活動規模が小さいので再編（合併）すべきである。／互いの団の都合で意見がかみ合わないといった問題もある。
- 合併した場合の具体像が見えない。
- 地区規模の大小が異なる合併は大きな問題は生じないが、同程度の合併は様々な協議が必要になる。

など多様な意見が寄せられました。

《理事長指針》

ボーイスカウトの運営基盤は「団」にあり、団および団が運営する隊が効果的に活動するように支援・協働を図るために「地区」が機能しますが、現実的に地区内の団数が少ない、地区内で団と団の距離があり、地区委員会はもとよりRTの開催も十分に行われていない状況もあります。

また、地区運営が団・隊活動の負担になっている事があることも否めない事実であり、次の指針のもと地区の再編、地区のあり様について検討することを、各地区委員長に要請していますので、地区・団での討議を深めてください。

- (1) 地区の再編を行う場合は平成25年度当初からスタートし、平成24年9月末までに結論を出す。
- (2) 地区の再編（地区同士の合併、地区の構成変更等）は、該当する地区内および地区同士が十分な協議を行い主体的に検討し、北海道連盟事務局（理事長・副理事長・コミッショナー・事務局長等）は地区の再編に伴う地区内および地区同士の協議に関与しない。
- (3) 北海道連盟での地区の再編は画一的に行わず、団および地区の主体性のもと選択する。
 - ① 現行の地区構成を踏襲する。
 - ② 近隣の地区と統合もしくは地区構成の変更を行う。
例：現在A地区に所属しているB団がC地区に移行する。従って、A地区・C地区は構成団の変更が生じる。
 - ③ 地区を廃止して北海道連盟直轄団とする。
- (4) 直轄団とする場合の措置
 - ① 地区が存続して地区内の一部の団のみが直轄団となることは認めない。
 - ② 直轄団を希望する団数および地域エリアにもよるが、複数の直轄団を担当する北海道連盟副コミッショナーおよび運営連絡員（オルガナイザー的機能）を、直轄団に所属する者の中から選任する。（エリア毎に1名程度）
 - ③ 通信費、連絡・交通費等として現状の北海道連盟の団分担金を値上げしなければならない状況が生じる。

《参考：地区を廃止して北海道連盟直轄団にした場合の想定状況》

地区を廃止して、北海道連盟直轄団にした場合、次のような事柄が想定されますので、検討の際、参考にしてください。

〔メリットと思われる事から〕

- ◎ 地区が無くなることで団の「財政的」「人的」負担が軽減される。
 - (1) 財政的負担：地区分担金等地区運営費用負担が軽減される。
 - (2) 人的負担：地区委員長、地区コミッショナー、地区委員等の地区の役務が軽減され、本来の役務である、団運営・隊運営に全力投球が可能となる。
- ◎ 地区が無くなることで、道連からの各団への情報伝達がスムーズになる。道連から団へ直接の情報提供となり、地区経由のワンクッションが無くなる。あわせてコミッショナー、地区事務長の役務が不要となる。

〔デメリットと思われる事から〕

- ◇ 地区が無くなることで、同じ地域にありながら交流が少なくなる恐れがある。
 - (1) スカウト達の交流が団内だけのものになりがちになる恐れがある。
 - (2) 団の運営面、教育面において団内だけの思考に偏る可能性がでてくる。
- ◇ 地区が無くなることにより、地域での奉仕活動、ラリー等などの活動や事業の継続・調整が難しくなる。
 - (1) 地域での活動や事業を継続するために新たに調整する組織(機能)が必要になる。
 - (2) 地域での活動や事業を運営する為の人、経費は最低限必要になる。
- ◇ 地区が無くなることにより、地区分担金等の費用負担は軽減されるが、新たに道連からの直接情報提供のための経費に要する分担金の増額が発生する。
- ◇ 地区が無くなることにより、地区登録していた方の登録をどうするか課題が生じる。
- ◇ 地区が無くなることで、従来地区で負担(補助)していた、道連主催などの各種事業・研修等への参加費用が団・個人の負担となる可能性がでてくる。

※ 全国的にみて、地区を廃止した県連、登録数が少ない団同士を合併した地区や県連もありますが、地域社会の期待に応え、ボーイスカウトの活動を求めている子どもたちに、豊かなスカウティングを提供するにはどうあるのが望ましいかの視点で検討、協議されることを願います。

生涯を通して『宇宙愛 真人生活』を理想に掲げ実践してきた彼には、常に「他人のために」というのが念頭にあった。下田豊松先達の一生を辿っていくと彼の少年・青年時代の二人の恩師の影響が大きかったのではないだろうか。私達のスカウト運動への重要な示唆がここにあると思う。

戦後のボーイスカウト北海道連盟初代連盟長の荒滝實先生の『ボーイスカウトの思い出』という素晴らしい文章は、貴重な文献であり、読みながら当時の世界に引き込まれてしまいそうである。先生は子ども達が好きで好きでたまらない、自分も一緒に楽しんでいることが眼に浮かぶ。

北海道のボーイスカウトを語るには欠かせない両先哲の生涯に触れることができるこの記念誌が道内のスカウト関係者はもとより広く日本全国で読まれることを期待したい。

ボーイスカウト北海道連盟

理事長 長岡正彦
(～はじめに～より抜粋)



[A5版 本文337頁]

ボーイスカウト北海道連盟創立六〇周年記念誌「PIONEER特集号 原点回歸～先哲に学ぶ～」は、各地区・団・隊に配付しましたが、若干予備がありますので、ご希望の方は北海道連盟事務局にご連絡ください。

なお、北海道連盟加盟員以外の方には印刷費実費を申し受けておりますのでご了承ください。



新春 弥栄

2012 新春 誌上賀詞交換



“永遠のスカウト”をめざして

北海道議会

ボーイスカウト育成議員協議会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西6丁目 北海道議会内

TEL 011-204-5901

北海道議会議員

おばた保則

釧路市若松町6-23

Tel 0154-22-3000/Fax 0154-22-7200

北海道連盟 副連盟長
北海道連盟維持財団 理事長

鎌倉 伯男

頌春

三指 皆様御健勝にてお揃いで新春をお迎えのこととお慶び申し上げます

私は体調不良で字を書くこともできなくなりまして、永らく皆様に御無沙汰いたしておりました誠に申し訳なく存じます

今の処日常生活には全く支障がありませんので、家内の介護を得て自宅療養に務めております

色々不自由なこともあります、幸いに元気に暮らしておりますので何とぞ御休心ください

新年早々景気の悪い病気の話で恐縮でしたが、今年も宜しくお願い致します

平成二十四年元旦

三浦 祐晶

弥栄

北海道神宮

名誉宮司 原口 法義
宮 司 吉田 源彦

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

ボーイスカウト
北海道連盟の皆様
明けまして
おめでとう
ございます
体調も快復致しました
今年は頑張ります
平成二十四年 元旦
札幌第二団
カブ隊副長
小笠原 清行

謹賀新年
山形で、真狩で友達をつくろう！
日本ボーイスカウト北海道連盟 理事長
長岡 正彦
日本連盟評議員 北海道・東北ブロック協議会会長

あけましておめでとうございます
胆振地区
—地区役員—

地区協議会会長	滝口 信喜
地区協議会副会長	熊野 正宏
地区委員会委員長	田中 洋一
室蘭第1団 団委員長	高橋 忠義
室蘭第4団 団委員長	田中 洋一
登別第1団 団委員長	菅野 正一
伊達第1団 団委員長	辻 正博
苫小牧第2団 団委員長	永井 承邦
地区コミッショナー	村中 啓子
地区副コミッショナー	木原 靖之
地区事務長	小笠原 貢
地区会計	佐藤 公英
地区監事	鷺沢 義則
地区監事	津田 和明

—北海道連盟役員—

地区選出理事	田中 洋一
副理事長	下田 好徳
学識経験者理事	西岡 浩
名誉会議議員	高木 康
相談役	高田 道夫
参与	大沼 勝美
参与	塩谷 眞守
参与	佐藤 公英
盟友	藤森 立城

事務局 〒050-0065
室蘭市本輪西町3丁目2番12号
電話・FAX (0143) 55-2876

謹賀新年！
スカウトに尽くす組織・運営を！

日本ボーイスカウト北海道連盟
副理事長 **前田 和道**

謹賀新年！
スカウトに楽しいプログラムを！

日本ボーイスカウト北海道連盟
副理事長 **下田 好徳**

北海道連盟
コミッショナーグループ

コミッショナー	扇間 康弘
副コミッショナー	今井 建
副コミッショナー	飛鳥 慶子
副コミッショナー	高橋 直克
副コミッショナー	北野 和
副コミッショナー	池田 君松

新春 弥栄

ボーイスカウト伊達第1団
団委員長 **辻 正博**

北海道連盟 参与／名誉会議議員
スカウトクラブ幹事長
札幌地区協議会会長
札幌第4団育成会副会長

川越 道生

新年！弥栄！！

留萌地区

留萌第1団	団委員長	櫛井 二三夫
留萌第2団	団委員長	下田 満
秩父別第1団	団委員長	寺迫 公裕
羽幌第2団	団委員長	小寺 克彦
稚内第2団	団委員長	前田 義彦
地区協議会長		櫛井 二三夫
地区委員長		三国 久介
地区コミッショナー		小笠原 祐治

新春弥栄！

北海道連盟地区選出理事 留萌地区委員長

三国 久介

謹賀新年

旭川地区協議会

顧問	高橋 晃久
顧問	野原 典雄
顧問	川村 武雄
顧問	森 豊
地区協議会長	松倉 信乗
地区副協議会長	野村 治正
地区委員長	高橋 明
地区副委員長	山口 淳
野営行事委員長	山口 淳
リーダー委員長	町田 清
組拡広報委員長	由良 和喜
野営場委員長	天満 昇
財政委員長	仙座 猛
会計	金澤 利寛
事務長	浅野 玲子
監事	菅原 エミ子
地区コミッショナー	村上 政義
副地区コミッショナー	宮澤 多佳子
副地区コミッショナー	西能 由理子
副地区コミッショナー	杉田 肇

謹賀新年

—空知地区—

顧問	三浦 武
地区協議会長	加藤 定幸
地区副協議会長	高山 敏晴
地区委員長	吉野 了乗
地区副委員長	高橋 直克
総務委員長	高橋 直克
リーダー担当委員	小林 美咲
スカウト担当委員	柿崎 誠
プロジェクト担当委員	吉野 裕
事務長兼会計	宮崎 寿弘
監事	山崎 信治
監事	内田 和夫
地区コミッショナー	飛鳥 慶子
副地区コミッショナー	吉田 淳一
副地区コミッショナー	水上 雄治
副地区コミッショナー	酒井 一夫

北海道連盟維持財団 常任理事
北海道スカウトクラブ 副会長
北海道連盟 相談役

入部 道之

新春弥栄

ともに“光の路”を歩みましょう！

十勝地区 帯広第4団

育成会長	古川 喜洋
団委員長	渡邊 伸夫
副団委員長	尾張 景
副団委員長	清水 義明

『北海道キャンポリー』で
おあいしましょう！



【羊蹄山麓 ポーイスカウト真狩野営場】

札幌地区協議会
札幌地区委員会

あけましておめでとうございます

ボーイスカウト札幌第9団



〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目

東本願寺札幌別院内

つながりスカウトの絆
ともに歩もう東北・北海道



今年も笑顔で☆札幌第10団一同

恭賀新年

菊地 一泰

学識経験者理事：広報担当

札幌滝野のカブラリー・ビーバーデー
ご支援ありがとうございました
真狩での北海道キャンポリー
ご指導を下さい

高橋 直克

学識経験者理事：プロジェクト担当

祝 新春
がんばれ東北
復活支援の心

西岡 浩

学識経験者理事：総務担当
室蘭第4団副団委員長

研修に参加してスキルアップを

池田 君松

学識経験者理事：リーダー担当

新春 弥栄

北野 和

学識経験者理事：スカウト担当

スカウトたちが自ら拓く未来を

混迷・混乱している世情ゆえに、スカウトたちが自ら未来を拓く力を付けるスカウティングを提供します。旧年に増してのご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

日本ボーイスカウト北海道連盟

ニ事務局ニュースニ

《スカウト進級状況（平成23年4月～12月）》

富士章	2名	宗教章	5名	
菊章	3名	1級章	16名	
技能章	野営章	10名	介護章	1名
	野営管理章	9名	環境衛生章	1名
	救急章	18名	無線通信章	1名
	炊事章	16名	スキー章	3名

《長岡理事長 ブロック協議会長に就任》

北海道連盟 長岡 正彦 理事長は、平成23年11月19日・20日に岩手連盟で開催された、北海道・東北ブロック協議会総会において「ブロック協議会長」に選任されました。

なお、長岡理事長は公益財団法人ボーイスカウト日本連盟の評議員（27人）を務めています。

《平成24年度登録申請は3月15日北海道連盟事務局必着です》

平成24年度から日本連盟の登録料改定に伴い、「そなえよつねに保険」が加盟員全員加入となり、保険料が登録費に含まれています。

3月15日（木）道連必着で、登録申請、登録料・分担金納入がありませんと、4月1日からの活動で保険の補償がされません。

また、全道の各団の登録申請を一括して日連に申請しますので、期日まで登録申請および登録料・分担金納入が済んでいない団が1コ団でもありますと、他の団の保険補償も適用されませんので、必ず3月15日道連必着で登録申請、登録料・分担金納入を行ってください。

《スカウト用品の購入は代金後納とします》

従来、スカウト用品の購入は代金前納でお願いしていましたが、品番と品名の違い、計算違いが多く発生していますので、スカウト用品納入後1週間以内に代金をお支払いください（請求書を発行します）

詳しいことは北海道連盟ホームページ事務局ニュースをご覧ください。

《23年度内の主な事業予定》

富士章北海道連盟面接	1月21日（土）	北海道連盟会館（予定）
北海道キャンポリー企画準備会	1月21日（土）	北海道連盟会館
4HTC実行委員会	1月21日（土）	山形県連盟事務局
リスクマネジメント講習会	1月22日（日）	北海道神宮頓宮
スカウトクラブ新春懇談会	1月29日（日）	すみれホテル
第2回北海道連盟名誉会議	2月11日（土）	北海道連盟会館
第6回常任理事会／正副コミッショナー会議	2月19日（日）	北海道連盟会館
日本連盟トレーナー研究集会～北海道～	2月25日（土）～26日（日）	北海道神宮頓宮
地区コミッショナー・トレーナー合同研究集会	3月3日（土）～4日（日）	北海道神宮頓宮
WB実修所CS課程第151期所員会議	3月24日（土）～25日（日）	北海道神宮頓宮
第4回理事会	3月25日（日）	北海道連盟会館

斧の響き 143号（平成24年1月1日発行）

発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟理事長 長岡 正彦

〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3 北海道ボーイスカウト会館内

Tel 011 - 823 - 7121 Fax 011 - 814 - 9377 E-Mail douren@agate.plala.or.jp

北海道連盟公式HP <http://www.bs-douren.org/>